

ムダにムダを重ねる徳山ダム「導水路」はいらない！

導水路はいらない！愛知の会

2023年5月30日

名古屋市瑞穂区内浜町 1-15 加藤伸久方

TEL/FAX 052-811-8069

「意見交換会」特集

—「手のひら返し」河村市長の、河村市長による 河村市長のための—

5 / 13 (土) 「(徳山ダム導水路) 意見交換会」見聞記

今回の「意見交換会」は、市長発言「反対の人たちの意見も聞かないかなわな」から出発しました。しかし、市長が苦し紛れの単なる思いつきの新用途(① 安心・安全なおいしい水、② 流域治水の推進、③ 堀川の再生)で屁理屈をこねても、「不都合な真実」は水余りです。

徳山ダムの新規開発水は、運用開始後15年たっても、一滴も使われていません。岐阜県(導水路は不要)も、愛知県も、名古屋市も使っていないのは、「要らない」からです! 要らないものを「使う」ために巨額の投資を行うことは、ムダにムダを重ねる愚に他なりません。



出席した河村たかし市長(左から2人目)や意見発表した学識者、市民団体代表ら=13日、名古屋市中区栄の中区役所ホール

徳山ダム導水路容認 河村市長「変更ない」 市民から反対の声

河村たかし・名古屋市長が「容認」に転じた、徳山ダム(岐阜県揖斐郡川町)の水を長良川や木曾川に引く導水路事業をめぐる。13日、同市で意見交換会が開かれた。100人が参加し、市民からは反対意見が相次いだ。河村市長は終了後、「意見を採り入れるが、方針変更はない」と語った。河村市長は「水余りを認めながら、水の安定供給や治水の推進、堀川浄化の三つを提案することで転換した」としており、賛否が激しかった。市が選んだ学識者、市民団体代表の発表は、8人中6人が賛成で、「気候変動で濁水も洪水のリスクが高まった」「明治用水頭首工のように、インフラ老朽化が進んだ」とした。しかし、市民の会場発言は9人中7人が反対。「堀川浄化は、余っている水道の水を使えばいい」「(導水路)結してはほすの、河村市長の手のひら返しにびっくり」「生態系への影響を考慮すべきだ」と続いた。反対の拳手が多く、司会が「賛成の人?」と促す場面もあった。河村市長はまとめて徳山ダムを造ってまった以上(導水路で使わない以上)と語って、会場から税金(税金)が安くならないとヤシも飛んだ。(伊藤肇)

「愛知の会」では、<堀川浄化と導水路は別もの、徳山ダムの水はいらない、着手前の今こそ撤退>のこえを市民の皆さんに訴える機会といたく、サポーターの皆さんへ広く参加を呼びかけました。

当日の会場は、話題がマイナー? 悪天候のせい? 時間帯(午後2時半~5時過ぎ)が不評? なのか、300人限定・抽選募集なのに100人前後の入りです。

河村市長が目玉の「堀川浄化」について、名古屋市より具体的かつ科学的な説明はありませんでした。

学識者&市民団体の意見発表は7人が賛成、反対が2人と偏り、議論もなし。(※学識者・富樫幸一さんと市民団体・近藤ゆり子さんの発言趣旨はP2~7掲載)

唯一盛り上がった会場発言では9人中、反対が7人。賛成は司会者が発言を督促しても2人でした。

(※賛成・反対とも、発言者の意見要旨はP8参照)

意見発表を聞き終えた河村市長は、「役所が市民を騙しとった」「造ってまった以上使わないかん」「近藤ゆり子さんのお話しはごもっとも」など、雑談を交えながらも容認方針の立場を強調しました。閉会后、会場を去るご夫婦がつぶやかれた「とんだ茶番劇ね!」の一言がいつまでも耳にのこりました。

※当日の会場配布資料は別冊コピー(カラーではなく、白黒ですみません。)をご覧ください。また、本「意見交換会」は後日、名古屋市公式 YouTube にて動画配信が予定されています。

— 目 次 —

- P1 : 5/13(土)「(徳山ダム導水路)意見交換会」見聞記
- P2~4: **投稿**「意見発表・ここがポイント」① 富樫 幸一 岐阜大学・名誉教授
- P5~7: **投稿**「意見発表・ここがポイント」② 近藤ゆり子 徳山ダム建設中止を求める会・事務局長
- P8 : 「意見交換会」が終わって、事務局へ寄せられた皆さんの声

投稿 「意見発表」ここがポイント①

…水資源と環境を流域全体のつながりで考えよう！

富樫 幸一 岐阜大学・名誉教授

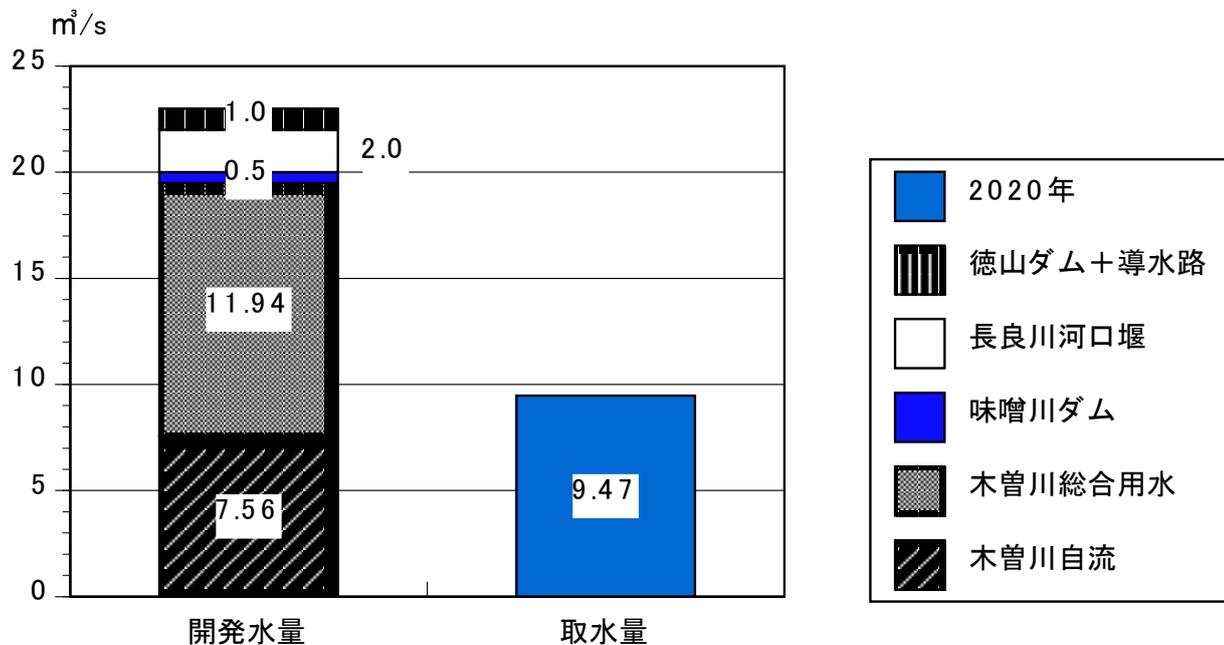
長良川河口堰や徳山ダムなどで、水資源が過剰に開発されてきたことを論じてきました。名古屋市の2009年6月の公開討論会にも参加しています。

現在、愛知県の長良川河口堰最適運用検討委員会でも、開門調査に向けた議論を続けていますが、今回は名古屋市に限定して資料を示して意見を述べます。

(1) 2倍もの水余り

名古屋市水道の2020年の日最大給水量は約80万 m^3 /日、毎秒の取水量だと9.5 m^3/s になります。水源としては木曽川の自流から取水が7.56 m^3/s 、岩屋ダムと木曽川大堰の木曽川総合用水から11.94 m^3/s で、ここからあと約2 m^3/s 分あれば足りているわけです。

木曽川用水も、下流の農業用水から転用したものが主ですから、岩屋からの補給がなくてもいい程度で、ダムの濁水の影響はほとんど受けません。



成戸（木曽川大堰の下流）の取水制限流量（不足は岩屋ダムから補給）は50 m^3/s でしたが、木曽川水系河川整備基本計画の「正常流量」は40 m^3/s と整合しておらず、50 m^3/s と決めたという1963年の木曾三川協議会の計算でも40, 60, 60 m^3/s と3つのケースが用いられていました。中部地整は30 m^3/s でも20 m^3/s でもいいということがあります。

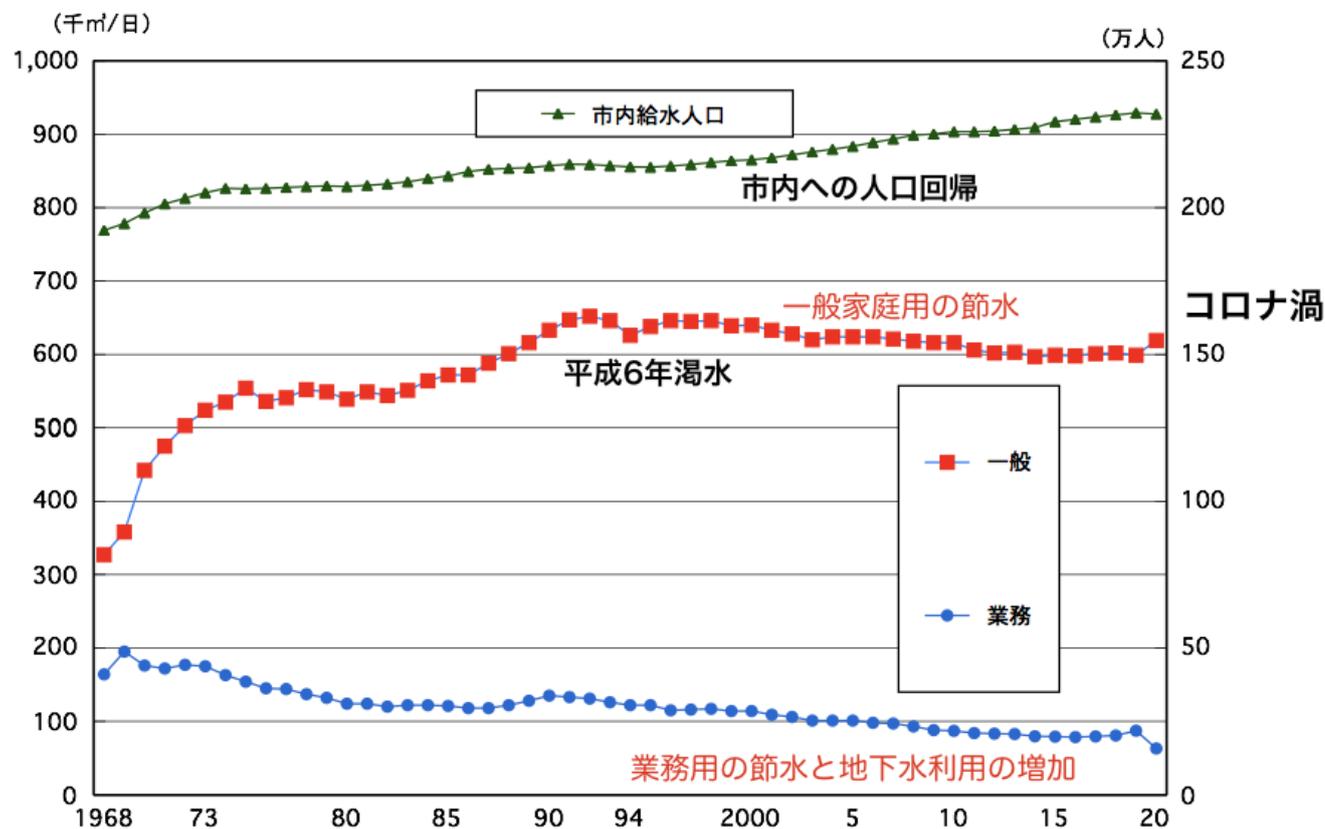
濁水時の運用の方も、利水と同様に事前から弾力的に運用することを提案してます。また、矢作川の明治用水のように、水道を優先して、農業用水の節水をすすめれば、平成6年のような濁水問題は生じません。濃尾平野の農地面積はすでに半分になっているのです。

(2) 名古屋市水道の給水量の減少傾向

1960～70年代前半は不足してましたが、木曽総ができてから完全な水余りになりました。過去の水

道の需要予測は右肩上がりを繰り返してきましたが、実際の有収水量、つまり家庭や事業所のメーターで計った量は1975年の123万 m^3 /日がピークで、その後は減少しています。

1980年の第8期拡張事業の見直しで、専用施設の拡張はその時にすでに中止しています。河口堰や徳山ダムの水は、これ以降、不要になったわけです。市内の給水人口は21世紀に入って220万人から230万人まで増えていますが、節水と、企業の地下水への転用などで減っています。2020年はコロナ渦の影響ですし、ここ2年は人口も増えなくなりました。



(3) 「大雨時の予備放流が空振りになると、利水容量が足りずに渇水になる」

市からは、台風や豪雨が予想されるときに事前放流が空振りになったら、利水に影響するから導水路の水が使えるという説明がありました。

ダムは100年分の堆砂と底水（発電用の高さのため）を除いて、発電（放流）、不特定、洪水調節、利水の容量の用途をもっています。「不特定」は分かりにくいのですが、下流の「正常流量」（環境保全？効果はない）と既存の農業用水などに影響しないように設けられているものです。

徳山ダムの利水は名古屋市などで縮小されてきたので、その分は国の補助率が7割と高い「治水」に含める不特定容量にしてしまいました。洪水調節は春から秋にかけて空けてあります。予備放流では「不特定」から行なうので、いきなり利水分が減るわけではありません。

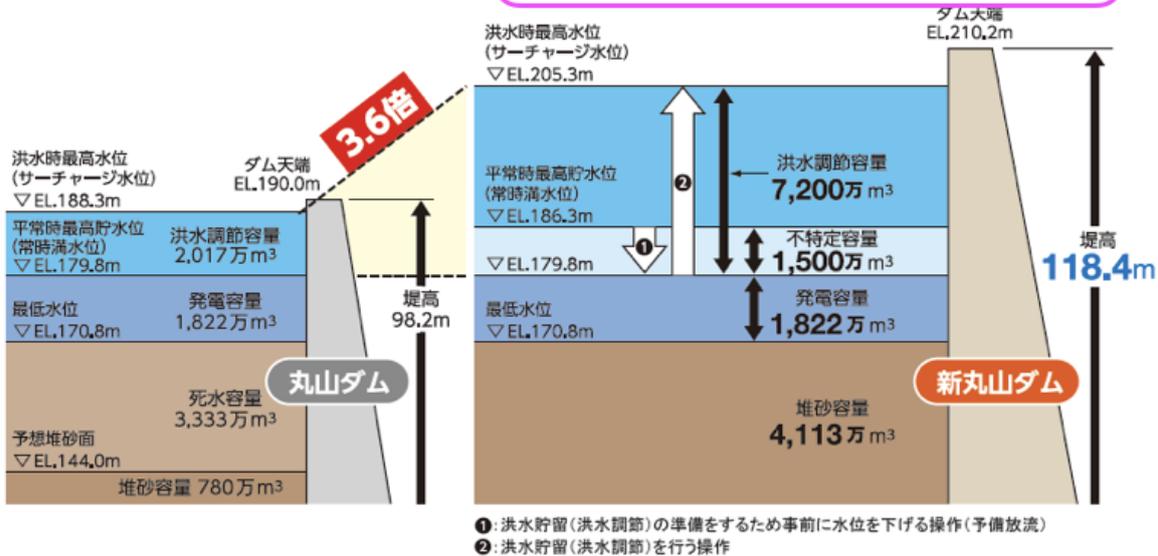
上流や支流のダム、例えば2018年7月の広域的な集中豪雨で、飛騨川の支流、馬瀬川の岩屋での洪水調節は行なわれましたが、少し下流では飛騨川のバックウォーターで白川町で水害が起こっています。本流や支流の限られた範囲の降雨しか貯められないので、上流部のダムの治水機能には限界があることが現われています。鬼怒川や球磨川の水害でも同じでした。

しかしですが、1983年の美濃加茂・坂祝水害では、丸山ダムが緊急放流して被害を大きくしました。現在、新丸山ダムが建設中（2029年完成予定）で、ここでは不特定容量を洪水調節に使うことが説明されています。あまり例がなかったんですが、これは直上流なのでこれまでよりは効果があるはずで、

でも、これでもって木曾川下流部で水害がなくなるというんですが、岐阜市の境川（天正時代（1586年）までの木曾川）ではよく避難指示がでるし、こちらは関係がありません。

貯水池容量配分図

洪水時に新丸山ダムは、丸山ダムと比べて3.6倍の水を貯めることができます。7,200万 m^3 の洪水調節容量のうち1,500万 m^3 は、渇水時の河川環境の保全や用水の安定化等のために設けた不特定容量を予備放流により、洪水調節容量として有効活用します。



ダム諸元

	丸山ダム	新丸山ダム
位置	右岸 岐阜県加茂郡八百津町八百津 左岸 岐阜県可児郡御嵩町小和沢	
形式	重力式コンクリートダム	
堤高	98.2m	118.4m
堤頂長	260.0m	340.6m
非越流部標高	EL. 190.0m	EL. 210.2m

貯水池諸元

	丸山ダム	新丸山ダム
流域面積	2,409 km ²	2,409 km ²
湛水面積	2.63 km ²	3.68 km ²
総貯留容量	7,952万 m ³	13,135万 m ³
有効貯留容量	3,839万 m ³	9,022万 m ³
洪水調節容量	2,017万 m ³	7,200万 m ³
不特定容量	0 m ³	1,500万 m ³
発電容量	1,822万 m ³	1,822万 m ³
常時満水位	EL. 179.8 m	EL. 186.3 m
サーチャージ水位	EL. 188.3 m	EL. 205.3 m

(4) 導水路の費用配分（アロケーション）とその増額

890億円の事業費となっておりますが、物価の上昇などでそれより2~3割は確実に増えるでしょう。維持管理費もかかってきます。

去年の明治用水の事故のように、50、60年で施設の更新や、ダムの浚渫が必要になって、またお金が掛かります。100年間で計算すると料金にはあまり影響しない、というのですが（先ほどの堆砂も100年でダムの機能は低下、実際には牧尾や横山では、できてすぐ埋まってしまった）、このままでは人口は半減、給水量も減ります。今のままでの計算は成りたちません。

堀川をキレイにするために、長良川に徳山~横山~西平の冷たく、水質の悪い水を流すのはなっとくできません。先ほど、白川町を出したのは、実は名古屋や愛知からの移住者もいて、有機野菜は隣のオアシス21でも売られています。こうした流域全体のつながりのこともイメージしてもらえないでしょうか。

「意見発表」ここがポイント②

…今こそ、導水路からの「撤退」を！

近藤ゆり子 徳山ダム建設中止を求める会・事務局長

(1) 導水路の使い道「新用途」提案なるものへの違和感

1995年、建設省は、徳山ダム建設を見直すとして、「徳山ダム建設事業審議委員会」を設置しました。建設省さえ、徳山ダムをこのまま建設して良いのか、と改めて自治体などに聞かないわけにいかなかった、つまり徳山ダム建設は無駄だ、とわかっていたのです。

このとき、私は、揖斐川流域住民として黙ってはいけなと、大垣市の仲間4人で「徳山ダム建設中止を求める会」を立ち上げました。徳山ダムが「できちゃった」からには導水路を、という、言ってみれば「できちゃった導水路」を造ってはいけなと私は考えます。

徳山ダムの水は要らない。過去の過ちを誤魔化しながら、無駄に無駄を重ねてはいけな、それを伝えるのが今の自分のミッションだと考えています。

でも、その前に。今名古屋市から示されている「新用途」の導水なるものに違和感をもっています。名古屋市配布資料「パワーポイント5&6」をご覧ください。①（安心・安全でおいしい水道水の安定供給）は名古屋市の水道に直接取水するというので、②（流域治水の推進）や、③（堀川の再生）とは並び立ちません。②は名古屋市のお金で木曽川水系の河川管理に責任をもとうというのでしょうか？

高水管理（洪水対策）にしる、低水管理（不足する水を補給する）にしる1トン/秒の水での効果には疑問があります。名古屋市が木曽川上流ダム群で多くの水を確保しながら余らせている事実を目を瞑っていないか、と感じます。③の「堀川の再生」＝堀川浄化。導水路ができれば堀川浄化ができる、導水路がないとできない、というような話は、無理スジの理屈です。

(2) 市民の願い「堀川再生（浄化）」と導水路は無関係

街を流れる川をきれいにするのはとても大事なことです。堀川の再生は是非とも実現して頂きたい。でも徳山ダムから水を引く導水路とリンクさせるのは、むしろ、すぐにできるかもしれないことを、わざわざ遅らせてしまう、ヘンな提案です。

河川管理上、川を流れる水には、いわば「名札」がついています。水道水は飲み水に使う、勝手に別の目的に使えば、違法行為になります。目的変更のハードルは高い。しかも水系を跨いで（木曽川水系→庄内川水系）堀川に水を補給することに振り替えるような「法的手続き」は現状ではありません。

仮に法改正までは不要だとしても、一級河川管理者である国交大臣が認めないとできません。関係自治体をも巻き込む大きな計画変更が必要になり、とても難しい大仕事になります。



そんな大仕事ができるというなら、導水路建設を待つまでもありません。今でも名古屋市が権利を持っているけど余らせている大量の水＝未利用水＝を使えば良い、ということになりませんか。

堀川浄化と、導水路建設をくっつけると、むしろお金と時間をたくさんかけなければならなくなります。切り離すべきです。

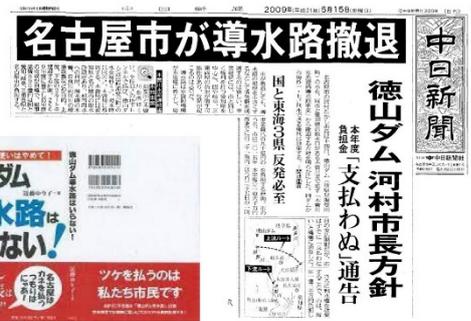
徳山ダムは要らなかった。名古屋市水道水についてグラフで示します。徳山ダムの水は全く要りません。

私は揖斐川流域の大垣市の住民ですが、徳山ダムから恩恵を受けているとは感じません。徳山ダムにお金にお金を注ぎ込んだことの弊害が遙かに大きいと日々感じています。

(3) 2009年の失敗の数々を振り返る

その①・・・5月15日・前後

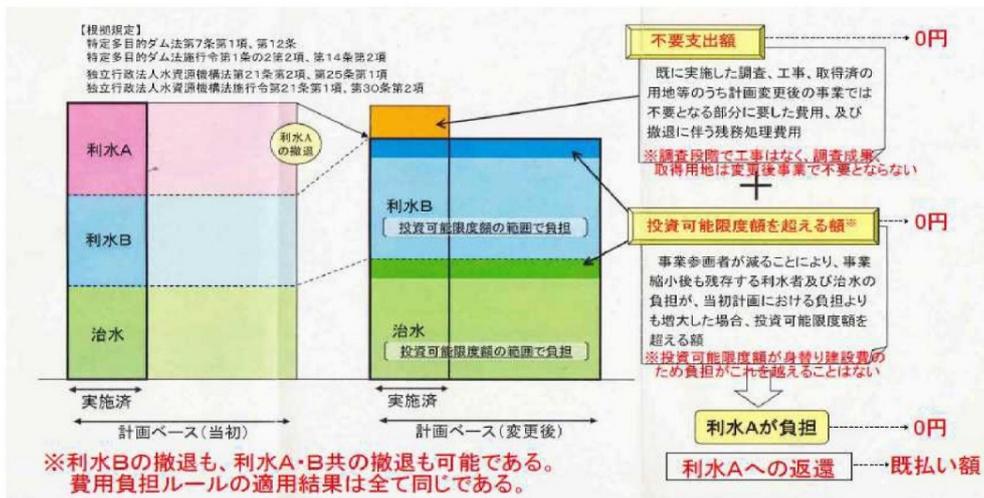
2009年5月15日、河村さんは「導水路撤退！」と言いました。この少し前、5月の連休明けに、河村さんから電話を頂いたとき、私は「導水路からの撤退を口にするのは時期尚早。まだ河村さんは市役所を掌握していないから」と申し上げましたが、聞いて貰えませんでした。



その②・・・法令に基づく撤退負担金はゼロ円

着工前であれば、法令に基づく撤退負担金はゼロ円です。水資源機構法施行令に算出方法が定められているので、撤退負担金の計算ができます。

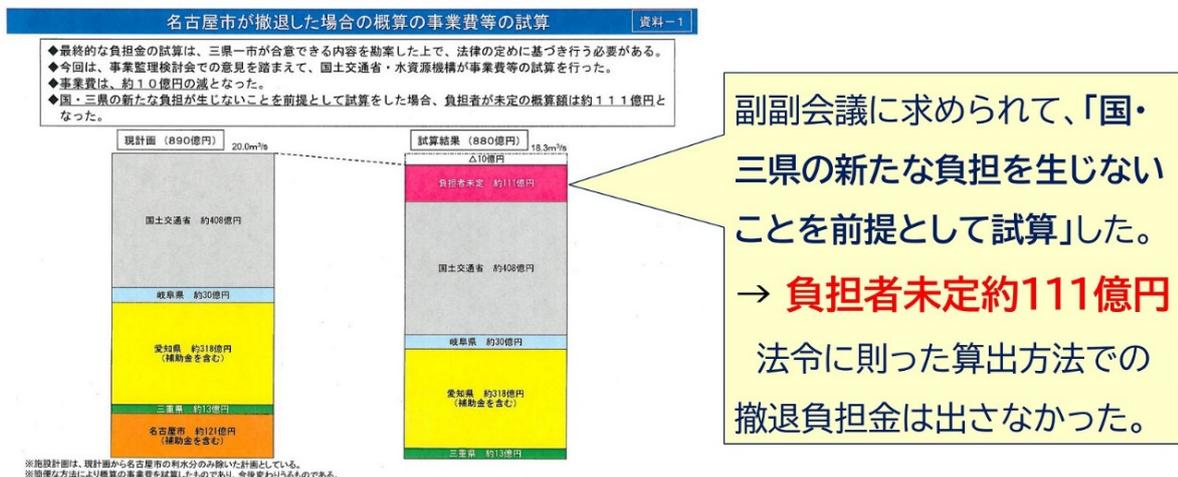
法令に基づく撤退負担金はゼロ円



その③・・・7.10 副副会議（三県副知事＋名古屋市副市長）が中部地整に作らせた資料

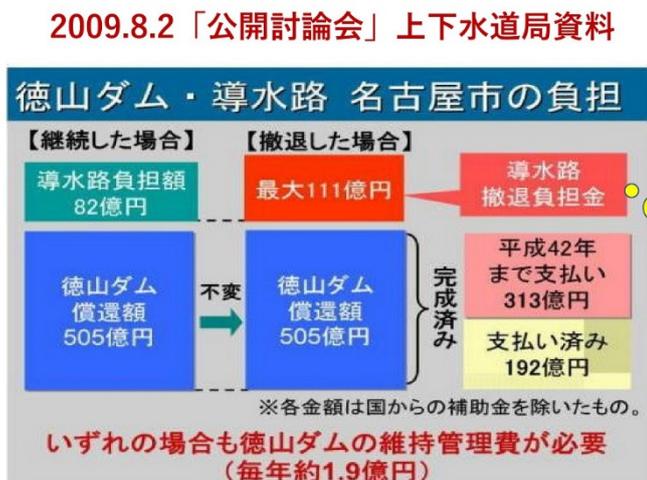
7月10日に、三県副知事＋名古屋市副市長からなる会議（副副会議）が、非公開で開かれました。この会議体が中部地整に「国・三県の新たな負担が生じないことを前提として試算した場合」という数字を出させました。法令を無視です。明らかに河村さんと名古屋市民を脅すためです。

2009.7.10 副副会議(三県副知事＋名古屋市副市長)が中部地整に作らせた資料



その④・・・8.2「公開討論会」上下水道局資料

その後、8月2日に名古屋市公館で開かれた公開討論会で、上下水道局が資料を出しました。とうとう「導水路撤退負担金111億円」という大ウソの数字になってしまいました。もう一度言いますが、撤退負担金はゼロ円です。



撤退負担金の算出方法は法令で定めている。「負担者未定」はない。

とうとう真っ赤なウソ!

私は、ダムとか、河口堰とか、導水路とか、さまざまな河川施設を見てきました。お金の面でも、自然を壊すという面でも、造ってしまったものが、未来世代に大きなツケを残しています。

申し上げたいことは、過去の失敗を誤魔化し、正当化するために、未来世代にツケを回してはならないということです。徳山ダムは要らなかつたし、今も要らない。新用途とか理屈をつけても、やはり要らない。失敗を失敗としてきちんと直視して、過ちを繰り返さないことが肝心です。「無駄にしないために」とさらに無駄を重ねることは、未来世代に、より大きなツケを回すことです。これこそ止めねばならない「無駄づかい」です。

(4) どうする名古屋市 今こそ「損切り (=撤退)」の英断を

過去の失敗の正当化のために、未来世代にツケをまわしてはならない

徳山ダムに注ぎ込んだ700億円を「有効に」使うためだとして、さらに130億円を投入するのは、まさに税金の無駄づかいそのものです。導水路事業の名古屋市負担分は、82億円ではなく、121億円です。補助金分を引いて82億円としていますが、目的を変更したら、水道水のためとして出される補助金はなくなります。また、補助金も私たちの税金から出されています。

導水路の全体事業費は890億円です。治水分として、国や愛知県が約60%を負担することになります。これは名古屋市民の皆さんも負担することになります。

木曽川水系連絡導水路事業・負担金



堀川浄化は、導水路問題とリンクすれば、お金も時間も余分にかかってしまいます。市民の悲願の達成が遠のきます。切り離して考えて頂きたい。徳山ダムで確保してしまった無駄な水、この無駄の、「損切り」を断行せよと強く申し上げたい。無駄に無駄を重ねてはいけません。

本体着工前、撤退負担金ゼロ円のうちに、現在の導水路事業実施計画からの正式な「撤退」の手続きをして頂きたい「撤退」には国や他の自治体の承認などは要りません。

機関としての名古屋市長が、公文書を発出することで完了します。是非、正式な撤退をして頂きたいと思えます。

<市民のフロア発言は「導水路に異議あり！」の意見が続出>

学識者・市民団体の意見発表後は会場からの意見聴取です。発言者9名の意見要旨は次記の通りです。

区 分	発 言 者 と 意 見 要 旨
賛成発言2名	① : F元市議 (中川運河を淡水化、掘川・新堀川の水源に) ② : ?さん (魚が大繁殖できる堀川に)
反対意見7名	① : H さん (使っていない水の利用で中止、お金は古い管の取替に活用を) ② : Z弁護士 (新用途の利用は法律上不可能です) ③ : T さん (上流の山々の保全などに力を入れる「環境都市」をめざそう) ④ : K さん (川は人間だけの物と違う、生態系への影響が考慮されていない) ⑤ : N さん (資材や人件費の高騰で事業費増大、未来世代の負担を増やすな) ⑥ : R さん (発表者は賛成・反対同数に、抽選後の通知事務がずさん) ⑦ : U さん (徳山ダムの水は発電に、使った水は揖斐川下流域へ戻そう)

<「意見交換会」が終わって、事務局へ寄せられた皆さんの声>

Oさん	小雨が降るなか、会場の中区役所前で「撤退」リーフを配布しました。受け取りダメは若干でした。多くの方が受け取りOKで、約200枚を配布しました。
Nさん	河村市長が、「堀川を泳げる川に」と発言していたから、会場は堀川1000人隊や女性会メンバー、河村市長の個人ファンで満員と思っていたけど、半分程度が空席なので驚いた。
Fさん	雨のせいで参加者が少ないと言うのはこじつけで、晴天でも同じ。司会者は割と良い人だった。賛成・反対同数にしたいと正直に言い、反対が多いと困る当局の意向?が丸わかり。河村市長が、最期に無意味な発言を長々と喋ったのは不愉快。会場発言者には実に厳格に時間制限をしたくせに!
Mさん	河村氏は「新提案」を目くらましに、「容認への転換」の立場だけを市民に了解させたかったのでしょうか。彼にとっては、導水路も新提案もどうでもいいことのように。なぜ、彼がそうなったのか。わかりません。しかし、結果としてこの無責任な政治家のパフォーマンスが、事業「継続」の動きに火をつけたことは明らかです。「導水路撤退!」「徳山ダムの水はいらない!」の声を広げることが一層重要になりました。ともに頑張りましょう。
Uさん	河村市長の「まとめ?」の挨拶は、酷いものでした。「徳山ダムの使い道を10何年考えてきたが、なかなかない。残念ながら。名古屋市はUFJに2兆円あるので、なるべく有効にそれを使ってかなあかん。神様に近い水を赤ちゃんに飲ませるために(これまで使った)500億円をドブに捨てず、もっと使おうということ。」など、言いたい放題。あくまで計画を進める立場を崩しませんでした。
Sさん	上下水道局は、導水路の建設費用を小さく見せるため、金利もダム・導水路の維持管理費も無視したムチャクチャな数字を持ち出した。平成21年度試算が525億円、管理費は100年累計で200億円、合計725億円。給水人口245万人が100年返済なら、1人当たり負担は、撤退の場合は約300円/年、建設の場合は約350円/年、その差50円/年で導水路が実現できる。>と説明した。「たかが50円、されど50円」許せない暴論だ!
Kさん	河村市長がまとめの話して、「近藤ゆり子さんの話のごもつとも」と連発していたのが、気になって仕方がありません。彼が水問題の本質を理解している、その上で、間違っただいいうか、訳が分からない政策転換をしたという感じがします。何がそうさせたのか。次の市長の登場を見据えた粘り強い運動を目指しましょう。

